

地域福祉計画を作ります

市では、約半世紀ぶりに改正された「社会福祉法(平成十二年成立)」に基づき、「秋田市地域福祉計画(平成十六年三月公表予定)」の策定にとりかかりました。地域福祉計画は、地域社会全体で支え合う住民福祉の実現をめざすものです。市・事業者・市民の役割を明らかにし、福祉サービスの適切な利用の推進、社会福祉を目的とする事業の健全な発達、地域福祉活動への住民参加の促進について、具体的な取り組み方法などを定めることとしています。

市では、社会福祉審議会に地域福祉専門分科会を新たに設置し、計画内容の話し合いを始めました。今後は、地域ごとにワークショップを開くなど、できるだけ多くの市民が、地域福祉のあり方などを学び、その活動に参加し合える機会をつくり、より地域の実態に即した計画を作っていく予定です。

地域福祉計画のお問い合わせは、福祉総務課 ☎(866)2092、ファクス(866)2417



地域に広がる笑顔のワ!



みんなが仲良くしていれば、少々辛いことがあっても、みんながしあわせに暮らしていけるはず。笑い合って、助け合って、励まし合って...。自然にそうできることが一番だけど、そうする努力も必要です。安心感をじんわり感じられるまちになっていきたいですね。そこにも、あそこにも、ふれあいのかたちはたくさんありました。



地域福祉 かいあうぬくもり

世代間交流には ニュースポーツが一番!

●新屋地区体育協会のニュースポーツの集い



毎月第2・第4土曜日に日新小学校体育館で行うジュニアスポーツクラブへ、地域のかたの参加もお待ちしています



フロアカーリングはやさしく押し出すように

新 屋地区体育協会では、地域の高齢者と子どもたちが一緒に体を動かして交流をはかるうと、ニュースポーツの集いを開催しています。

十一月九日、日新小学校体育館で行われた二回目の集いには、約五十人が参加。フロアカーリング、ペタンク、キンボールの三種目に挑戦しました。新屋体協の塚田敏春会長は、「みんなで交流しながら体を動かすことの楽しさを知るには、体力勝負の競技ではないニュースポーツが最適!」とお勧め。

初対面のお年寄り子どもたちは、一緒に汗をかきながらすぐに仲良くなって、コミュニケーションもばっちり。ナイスプレーと歓声の連続でした。

地域に開かれた施設をめざして

障害者生活支援センター「ほくと」(下新城野) 地域生活支援コーディネーター

戸嶋光成さん



ボランティアのみなさんと小泉湯へお花見

障 害者とそのご家族の相談窓口や障害者と地域のかたの交流の橋渡しをしています。身体障害者のための車いす介護やボランティア養成講座などの開催や、施設のロビーでボランティア団体が手作りケーキを持ち寄って定期的に喫茶を開くなど、地域の人たちとの交流も順調。施設利用者にも好評で、仲良くお付き合いをしています。

施設近隣のお店にも大変お世話になっていきます。障害者が外出するとなるといろいろ不安な面があります。でも、店員さんが親切かつ丁寧に接してくれるおかげで、車いすの利用者が一人で買い物に行けるようになりました。それに、社内で手話講習を行っているお店もあるようです。ある意味、「ほくと」があることでこの地域の「地域福祉」は進んでいると思います。

地域のみなさんには、これからも遠慮なく施設に遊びに来て、利用者とおしゃべりや卓球、囲碁・将棋などを一緒に時間を過ごしてほしいです。交流を重ねることで、障害のある人もない人も、同じ地域の住民だという意識が持てる雰囲気づくりができればいいですね。